

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
 昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

日本海水学会誌  
 第31巻～第40巻 (通巻169号～228号) 総目次  
 昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

目 次		
1. 巻頭言	7.3 分析および物性	8.9 海水利用における化学分析
2. 挨拶	(1) 海水主成分	8.10 第6回国際塩シンポジウムおよび カナダ, アメリカ, メキシコ塩事情 調査報告
3. 総説	(2) 海水微量成分	8.11 第1回海水淡水化・水再利用国際 会議報告
4. 進歩総説	(3) 物性	8.12 海洋エネルギーと資源
5. 講座	8. 特集記事	8.13 第2回海水淡水化・水再利用国際 会議報告
6. 総合論文	8.1 国際脱塩・水利用会議報告	8.14 材料・構造物小特集
7. 一般報文	8.2 第5回国際塩シンポジウムおよび ヨーロッパ塩事情調査報告	9. 資料
7.1 海水・かん水の濃縮および脱塩	8.3 第6回海水淡水化国際シンポジウム —ヨーロッパおよび中近東淡水化事情 調査報告	10. 会員寄書
(1) イオン交換膜法	8.4 第4回IDEA海水淡水化・水再利用会議 報告—チャナバサパ博士追悼記念	
(2) 蒸発法	8.5 イオン交換膜電気透析法による製塩 (創立30周年記念特集号)	
(3) 冷凍法	8.6 第7回海水淡水化国際シンポジウム 脱塩技術海外調査団報告	
(4) 逆浸透法	8.7 沿岸水域の環境保全と海水の取水 廃水設備について	
(5) その他	8.8 海洋エネルギーと関連構造物	
7.2 海水の科学と資源		
(1) 製塩および食塩		
(2) 相律		
(3) にがり		
(4) ウラン		
(5) その他の海水成分		
(6) 地球科学および環境科学		

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
1. 巻 頭 言					
縦割りと横割り	船田 周	31	3	95	1977
編集委員長に就任して	木村 尚史	31	4	153	1977
海水と分析化学	西村 雅吉	31	5	211	1978
無事終了した国際脱塩・水再利用会議	石坂 誠一	31	6	269	1978
学際研究に際して	武藤 義一	32	1	1	1978
海によせる思い	清山 哲郎	32	3	115	1978
原点において考える	諏訪 小一郎	32	4	173	1978
第5回国際塩シンポジウムおよびヨーロッパ塩事業調査団に参加して	橋爪 正男	32	5	233	1979
海水 ―その回想と展望	本島 健次	32	6	285	1979
第6回海水淡水化国際シンポジウム, ヨーロッパおよび中近東淡水化事情調査	大矢 晴彦	33	1	1	1979
海水と配位化学	上野 景平	33	3	141	1979
新技術開発とその実用化	村山 義夫	33	4	199	1979
これからの研究開発	安藤 誠太	33	5	249	1980
IDEAシンポジウムについて	木村 尚史	33	6	303	1980
海洋の微量元素	岡部 史郎	34	1	1	1980
イオン交換膜電気透析法による製塩	加峯 正美	34	2	47	1980
膜技術の発展を願って	石橋 信彦	34	4	215	1980
―会員の感想	堀部 純男	34	5	277	1981
海とデータ	藤原 鎮男	34	6	347	1981
化学工学の分野における海洋開発に対する期待	城塚 正	35	1	1	1981
エントロピーの極限へ挑む ―ポルシェ計画と海水学について	太田 時男	35	3	121	1981
最近のエネルギー事情と海洋エネルギー	石坂 誠一	35	4	181	1981
海水のトレースキャラクターゼーション	藤永 太一郎	35	5	253	1982
今後の学会の活動方針について	小川 恒彦	35	6	315	1982
海洋・海水に関する私見	垣花 秀武	36	1	1	1982
それでも太陽に挑むイカルスになろう ―原料塩の自給を目指して	杉野 利之	36	3	125	1982
学会に期待する新しい展開	中山 道夫	36	4	203	1982

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
海水と分析化学	武藤 義一	36	5	267	1983
イオン交換膜製塩法 - その開発の歴史を振り返って	尾上 康治	36	6	357	1983
イオン交換膜と30年	八幡屋 正	37	1	1	1983
細分化と統合	船田 周	37	3	147	1983
第6回国際塩シンポジウムおよびカナダ, アメリカ, メキシコ塩事情調査	春藤 康二	37	4	201	1983
水再利用について	山辺 武郎	37	5	279	1984
臨時行政調査会の答申 - 塩専売事業について	友成 豊	37	6	333	1984
海水イオン採取をめぐる展開	美馬 精一	38	1	1	1984
日本海水学会誌の編集方針	木村 尚史	38	3	135	1984
生物相への関心	石川 不二夫	38	4	189	1984
海水の分析	重松 恒信	38	5	255	1985
規則と技術の進歩	松野 武雄	38	6	327	1985
水と膜分離技術	藤堂 尚之	39	1	1	1985
日本塩業と当学会への期待	枝吉 清種	39	3	119	1985
海洋エネルギーと資源	太田 時男	39	4	187	1985
連合の時代	船田 周	39	5	287	1986
海洋丸の思い出	不破 敬一郎	39	6	355	1986
日本海水学会への期待	高橋 孝吉	40	1	1	1986
腐食データベース雑感	梶野 秀夫	40	3	133	1986
製塩と海水資源	広井 功	40	4	209	1986
イオン交換膜の工業化	世古 正臣	40	5	263	1987
近頃思うこと	後藤 藤太郎	40	6	321	1987
<b>2. 挨拶</b>					
第28年会挨拶	石坂 誠一	31	2	45	1977
第28年会挨拶	山辺 武郎	31	2	45	1977
第28年会祝辞	内田 俊一	31	2	47	1977
第28年会祝辞	竹内 能忠	31	2	48	1977
第29年会挨拶	諏訪 小一郎	32	2	69	1978
第29年会祝辞	高橋 堯	32	2	70	1978
第30年会挨拶	諏訪 小一郎	33	2	79	1978
第30年会挨拶	杉 二郎	33	2	79	1978

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
 昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
第31年会挨拶	杉 二郎	34	3	145	1980
第31年会祝辞	泉 美之松	34	3	146	1980
第31年会祝辞	石坂 誠一	34	3	147	1980
第31年会祝辞	岩下 光男	34	3	148	1980
第32年会挨拶	杉 二郎	35	2	51	1981
第32年会祝辞	小川 恒彦	35	2	51	1981
第32年会祝辞	前川 忠夫	35	2	52	1981
第32年会祝辞	幡 克美	35	2	53	1981
第32年会祝辞	桑原 昭夫	35	2	54	1981
第33年会挨拶	小川 恒彦	36	2	61	1982
第34年会挨拶	小川 恒彦	37	2	63	1983
第34年会挨拶	垣花 秀武	37	2	64	1983
第34年会祝辞	河野 覚太郎	37	2	64	1983
第35年会挨拶	垣花 秀武	38	2	71	1984
第36年会挨拶	垣花 秀武	39	2	61	1985
第36年会祝辞	佐伯 繁	39	2	61	1985
第37年会挨拶	垣花 秀武	40	2	69	1986
<b>3. 総 説</b>					
ダイナミック膜による逆浸透	井川 学	31	2	52	1977
海水からウランを採る (Ⅱ)	尾方 昇	31	3	97	1977
海水ウラン採取の技術的問題点	菅野 昌義	31	4	155	1977
海水化学におけるイオン交換体の応用	高井 信治	32	6	287	1979
海水におけるクーロメトリーの応用	高田 芳矩, 武藤 義一	33	2	84	1979
海水利用工業の歩みと展望	中山 道夫	33	2	93	1979
イオン交換膜の有機汚染	楠本 紘士	33	3	143	1979
太陽熱脱塩の現状	後藤 藤太郎, 中嶋 義弘	33	3	154	1979
塩と栄養	岩尾 浩之	33	4	201	1979
逆浸透法の工学的問題	木村 尚史	33	5	251	1980
海水からウランを採る (Ⅲ)	尾方 昇	34	1	3	1980
ブロムを中心とした「にがり工業」の現状と将来	小松 勝, 西川 周, 小島 茂樹	34	4	217	1980
海洋エネルギーの開発研究の現状	本間 琢也	34	5	279	1981
波力発電 - 海明の成果	益田 善雄	34	6	349	1981

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
膜法による重金属廃水処理	神澤 千代志	35	3	123	1981
フラッシュ蒸発の機構と促進	宮武 修	35	5	255	1982
海水ウラン吸着剤の展望	菅坡 和彦, 加藤 俊作	35	6	317	1982
わが国における製塩法の発達Ⅰ. 入浜式塩田の成立まで	村上 正祥	36	1	3	1982
わが国における製塩法の発達Ⅱ. 明治以降の製塩法の発達	村上 正祥	36	2	67	1982
蒸発法海水淡水化における揮発性汚染物質の挙動	白田 利勝	36	3	127	1982
海水ウラン採取のための選択的キレート吸着剤	田伏 岩男, 小夫家 芳明	36	4	205	1982
海水淡水化多段フラッシュ蒸発装置のプロセス特性	佐藤 真士	36	4	218	1982
製塩における蒸発装置および操作の発達Ⅰ	村上 正祥	36	6	359	1983
製塩における蒸発装置および操作の発達Ⅱ	村上 正祥	37	1	3	1983
イオン交換膜電気透析装置の限界電流密度	三好 裕文, 片岡 健	37	2	70	1983
海洋フミン物質のキャラクタリゼーションとその溶液的性質	篠塚 則子, 早野 茂夫	38	1	3	1984
イオン交換膜および電気透析現象に関する電気化学的検討	田中 良修	38	5	257	1985
イオン交換膜の将来展望 -イオンかん水のソーダ工業への利用の可能性	八幡屋 正	38	6	329	1985
最近の育晶技術	豊倉 賢	39	2	68	1985
イオン交換膜かん水の組成と濃縮特性	杉田 静雄	39	6	357	1986
フラッシュ蒸発技術の応用	宮武 修	40	2	78	1986
海水ウラン採取用吸着剤の開発に関する研究	加藤 俊作, 菅坡 和彦	40	5	265	1987
<b>4. 進歩総説</b>					
海水の分析	和田 芳裕, 清水 和雄	34	4	233	1980
イオン交換膜の最近の進歩	糸井 滋, 田中 良修	34	5	293	1981
最近の逆浸透法による淡水化について	木村 尚史, 湯本 恵視	35	1	3	1981
蒸発法海水淡水化について	外山 茂樹	35	2	58	1981
海水溶存資源の採取	尾方 昇	35	3	134	1981
太陽エネルギー利用淡水化技術	後藤 藤太郎, 中嶋 義弘	35	6	326	1982
海水淡水化および製塩におけるスケール制御	杉田 静雄	36	1	14	1982
塩の品質と利用	増沢 力	36	2	77	1982
海水中における腐食・防食	宮内 永和	36	3	140	1982
海塩系の相平衡について	本山 正夫	36	4	233	1982
イオン交換膜の最近の進歩	糸井 滋, 田中 良修	37	1	18	1983

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
最近の逆浸透法による淡水化について	岡崎 素弘, 木村 尚史	37	3	149	1983
蒸発法海水淡水化技術の動向	外山 茂樹	37	5	281	1984
海水中のウラン採取研究の動向	尾方 昇	38	1	14	1984
製塩における最近の進歩	杉田 静雄	38	2	76	1984
塩水による腐食と防食	梶野 秀夫	38	4	191	1984
海塩系多相平衡と利用	本山 正夫	38	5	283	1985
冷凍法による海水淡水化の種類とその研究開発の過程	川崎 成武	39	2	68	1985
海水環境	岡部 史郎	39	3	121	1985
逆浸透法	神澤 千代志	40	5	275	1987
<b>5. 講 座</b>					
熱再生イオン交換樹脂による脱塩	前田 敏弘, 平野 務	31	1	20	1977
イオン交換膜のせんごう特性	村上 正祥	31	4	191	1977
天日塩の品質	増沢 力	31	5	241	1978
溶融食塩電解における新技術	吉沢 四郎	32	2	104	1978
海水の分析, とくに微量成分について	重松 恒信	32	3	150	1978
並塩の固結緩和	加峯 正美	32	4	206	1978
イオンかん水濃縮における母液, にがりの組成	村上 正祥	32	6	335	1979
輸入塩のサンプリングについて	加峯 正美, 加納 隆弘	33	2	123	1979
海水濁度の測定技術	国定 勇一	33	3	184	1979
イオン製塩近代化の展望 (I)	永美 益夫	33	4	221	1979
イオン製塩近代化の展望 (II)	永美 益夫	33	5	281	1980
海底土の初期続成過程とマンガン団塊	角皆 静男	33	5	287	1980
国際単位系 (SI) について	西村 伸二	34	5	307	1981
海水科学における海洋生物の挙動 (I)	藤山 虎也	34	5	316	1981
海水科学における海洋生物の挙動 (II)	藤山 虎也	34	6	373	1981
イオン電極式オートアナライザーによる製塩試料の分析	杉田 静雄, 加納 隆弘	36	1	45	1982
圧透析	吉田 章一郎	36	6	392	1983
海浜樹林の開発	杉 二郎	37	2	101	1983
イオン交換膜かん水の組成	村上 正祥	38	3	162	1984
イオンかん水のせんごう	江原 亮	38	6	368	1985
非破壊試験技術の現状と問題点	三好 滋	39	2	100	1985

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
水圏生態系における原生動物繊毛虫の役割	前田 昌調	39	3	175	1985
食塩の結晶形態について	村上 正祥	40	1	17	1986
新しい膜利用技術「ケミカルヒートポンプ」	秋谷 鷹二, 川崎 成武	40	3	159	1986
<b>6. 総合論文</b>					
海水濃縮におけるスケール生成の防止に関する研究	杉田 静雄	32	1	34	1978
含水酸化チタン造粒体による海水ウラン吸着特性とプラント設計への応用	尾方 昇	35	5	266	1982
イオン苦汁処理工場の運転方式	坂本 佳六	38	2	84	1984
海水ウラン採取における吸着工程の概念設計, コストおよび感度解析	尾方 昇	39	5	289	1986
多段フラッシュ蒸発式海水淡水化装置におけるスケールの生成と防止	和泉 健吉	39	6	371	1986
<b>7. 一般報文</b>					

7.1 海かん水の濃縮および脱塩

(1) イオン交換膜法

陽イオン交換膜の2価イオン難透過処理にともなう膜の電気抵抗の変化および水分解の発生	田中 良修	31	3	123	1977
陽イオン交換膜の2価イオン難透過処理における電場の効果	田中 良修, 金井 憲子	32	2	95	1978
陽イオン交換膜の2価イオン難透過処理効果の経時変化	田中 良修	32	2	100	1978
陽イオン交換膜に対するニッケルとナトリウムの選択透過性	安積 敬嗣	32	6	323	1979
イオン交換膜電気透析における温度の効果	田中 良修, 金井 憲子	34	1	31	1980
イオン交換膜を用いた3室型透析電池の特性	妹尾 学, 岩元 和敏, 大矢 晴彦, 小野田 真稔	34	4	244	1980
イオン交換膜製塩各工程における海水中的懸濁態有機成分ならびに微生物について	大和田 紘一, 清水 潮, 多賀 信男	34	6	359	1981
イオン交換膜に付着する微生物ならびに有機物について	大和田 紘一, 清水 潮, 多賀 信男	34	6	367	1981
スパーサーのある電気透析装置のイオン交換室内の流動特性	三好 浩文, 福元 次夫	35	2	77	1981
電気透析層の電流効率に及ぼす諸因子の影響	松崎 晴美, 黒田 修, 高橋 燐吉, 沢 俊雄	35	3	149	1981
スパーサーの両側に空隙のあるイオン交換室内の流動特性	三好 浩文, 福元 次夫	35	6	339	1982
スパーサーのある電気透析装置のイオン交換室の限界電流密度	三好 浩文, 福元 次夫, 片岡 健	36	1	38	1982

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
イオン交換膜を用いた3室型透析電池のエネルギー変換特性の解析	大矢 晴彦, 小野田 真稔, 妹尾 学, 岩元 和敏	36	2	89	1982
スパーサーの両側に空隙のあるイオン交換室の限界電流密度	三好 浩文, 福元 次夫, 片岡 健	36	3	144	1982
電気透析槽の電気抵抗に及ぼす気液混相流の影響	松崎 晴美, 黒田 修, 高橋 燐吉	36	4	245	1983
イオン交換膜電気透析装置内の絶縁体付近における電流密度分布	田中 良修	37	5	295	1984
太陽熱利用高温電気透析法海水淡水化装置	野村 貢, 黒田 修, 高橋 燐吉, 有川 喜次郎, 後藤 藤太郎, 轡田 隆	38	3	142	1984
製塩における膜付着物分析方法および調査結果	尾方 昇, 新野 靖, 清水 典子	38	5	306	1985
イオン交換膜の多価金属イオンの選択透過性	大矢 晴彦, 豊永 由布子, 島田 和彦, 根岸 洋一	39	3	144	1985
(ノート)イオン交換膜透析装置における電流分布の測定法について	永塚 敏, 長谷川 正巳, 畦地 昭二	40	5	291	1987
精密ろ過膜による海水の2次ろ過	永塚 敏, 鍵和田 賢一, 曾我 清己, 杉田 静雄	40	6	350	1987
海水水質の膜付着物に及ぼす影響	永塚 敏, 鍵和田 賢一, 曾我 清己, 杉田 静雄	40	6	356	1987

(2) 蒸発法

エネルギーコスト高騰に伴う多段フラッシュ蒸発装置の省エネルギー策に関する2, 3の考察	菅田 孟, 外山 茂樹, 佐藤 真士, 伊ヶ崎 文和	31	1	1	1977
海水淡水化10万m <sup>3</sup> /日テストモジュールプラントのデータ収録システムー特に温度計測について	伊ヶ崎 文和, 佐藤 真士, 菅田 孟, 外山 茂樹, 遠山 武	31	3	110	1977
排熱利用海水淡水化多段フラッシュ蒸発装置とその省エネルギー性の評価	中嶋 義弘, 外山 茂樹, 佐藤 真士, 菅田 孟, 伊ヶ崎 文和, 中沢 宣明	31	5	213	1978
高流速長管式海水淡水化多段フラッシュ蒸発装置内で発生するミストの粒度分布測定	後藤 昭博, 外山 茂樹, 牧野 和孝, 井伊谷 鋼一	31	5	221	1978
海水淡水化装置の伝熱管汚れ物質とボール洗浄効果の検討	六串 俊巳, 高橋 燐吉, 和泉 健吉	32	3	128	1978
排熱利用MSF脱塩装置内での供給海水放出不凝縮気体の問題	宮武 修, 田中 逸夫, 橋本 俊行, 富村 寿夫	32	4	183	1978
部分負荷稼働を考慮した海水淡水化多段フラッシュ蒸発プロセスの特性	佐藤 真士, 外山 茂樹	33	2	109	1979
蒸発法における水質改良についてー錯形成によるアンモニアおよびシアン挙動ー	信田 和純	33	3	165	1979



日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
多段フラッシュ蒸発器の造水倍率におよぼす伝熱管の汚れの影響	和泉 健吉, 山田 章, 高橋 燐吉, 池永 義弘	33	3	172	1979
10万 <sup>3</sup> /日海水淡水化多段フラッシュ蒸発装置テストモジュールにおけるフラッシュブライン流の不均一性とその装置性能におよぼす影響	菅田 孟, 伊ヶ崎 文和, 佐藤 真士, 外山 茂樹	33	4	214	1979
多段フラッシュ蒸発装置の性能に及ぼす凝縮管束内のブラインの流れの不均一性の影響	中嶋 義弘, 中沢 宣明, 外山 茂樹	33	5	274	1980
フラッシュ蒸発式海水淡水化プラント用ボール循環装置	六串 俊巳, 高橋 燐吉, 和泉 健吉	35	1	10	1981
スプレフラッシュ蒸発における非平衡温度差	宮武 修, 富村 寿夫, 井手 雄一	35	2	69	1981
スプレフラッシュ蒸発の促進とそれに伴う非平衡温度差の低下	宮武 修, 富村 寿夫, 井手 雄一	35	5	280	1982
蒸発式海水淡水化装置で生成するアルカリスケールの熱的特性	和泉 健吉, 山田 章	35	6	355	1982
フラッシュ蒸発式海水淡水化装置におけるアルカリスケールの物質収支	和泉 健吉, 山田 章	38	1	34	1984
水中の油滴による壁面の汚れと除去機構	外山 茂樹, 森 英利, 山田 修三, 増田 吉則	38	3	148	1984
多段フラッシュ蒸発式海水淡水化プラントにおける循環ブライン中の炭酸物質挙動	和泉 健吉, 沢 俊雄, 山田 章	39	1	19	1985
蒸発法海水淡水化における油分の挙動	中沢 宣明, 佐古 猛, 小畑 健三郎, 大久保 悌二, 白田 利勝	39	1	32	1985
太陽直射多重効用蒸留装置における集熱面温度と蒸留水収量との関係	津村 健児, 山下 正幸, 渡辺 裕人, 稲葉 秀達	39	3	129	1985
多段フラッシュ蒸発式海水淡水化プラントにおける鉄酸化物スラッジの挙動	和泉 健吉, 沢 俊雄, 山田 章	39	3	164	1985
海水淡水化多段フラッシュ蒸発装置におけるアンモニアの挙動	中沢 宣明, 明尾 誠, 佐藤 真士, 大久保 悌二	40	3	152	1986
(ノート) 高温海水蒸発条件下でのウィック貼着金属板の耐食試験	津村 健児, 山下 正幸, 福井 健一	40	4	226	1986

(3) 冷凍法

気泡かくはんによる氷結晶の晶析	大輪 優, 川崎 成武	32	4	176	1978
液体窒素直接接触冷凍法による塩水淡水化に関する研究	大矢 晴彦, 坂西 良一, 庄司 敏博, 鶴岡 義典, 高橋 統, 根岸 洋一	32	6	301	1979
冷凍法海水淡水化装置における気液攪拌式横型結晶管の操作条件	長島 義悟, 前田 伸一	32	6	310	1979

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
冷凍法による海水淡水化のための分離洗浄装置における洗浄水の損失	長島 義悟, 山崎 隆尉, 前田 伸一	32	6	314	1979
活性炭による水および食塩溶液中に溶解しているノルマルブタンの吸着	大輪 優, 川崎 成武	33	5	261	1980
塩素処理による補給海水中的アンモニアの分解	後藤 藤太郎, 白田 利勝, 早野 市郎, 富沢 敏, 神谷 国男, 中嶋 義弘, 根岸 章	33	5	269	1980
二次冷凍冷媒法により得られたNaOH・3.5H <sub>2</sub> O結晶の遠心脱水について	秋谷 鷹二, 大輪 優, 川崎 成武	36	1	22	1982
攪拌機によるカセイソーダ溶液中への二次冷媒の分散	秋谷 鷹二, 大輪 優, 川崎 成武	36	1	29	1982
希薄アンモニア-塩水の気液平衡関係	中沢 宣明, 明尾 誠, 佐藤 真士, 大久保 悌二	38	6	348	1985

(4) 逆浸透法

逆浸透膜裏打ち材による圧力損失について	原谷 賢治, 松田 正治, 吉留 浩	31	2	62	1977
逆浸透用支持管付き管状膜の試作	松田 正治, 原谷 賢治, 中根 堯	32	4	190	1978
高分子電解質によるダイナミック膜の形成	原谷 賢治, 中根 堯, 吉留 浩	32	4	197	1978
逆浸透法酢酸セルロース膜における溶質および水の膜透過におよぼす自由水と結合水の性質	小川 善広, 鈴木 彰	37	2	82	1983

(5) その他

(ノート) 太陽熱利用海水淡水化に関する一考察	中嶋 義弘, 藤原 一郎, 後藤 藤太郎	37	2	97	1983
電解質水溶液の物性の相関 - 蒸気圧, 沸点上昇, 蒸発潜熱におよぼす電解質濃度の影響について	佐古 猛, 原谷 賢治, 小畑 健三郎, 白田 利勝	37	3	165	1983
パーペーレーション法による海水の淡水化	木村 尚史, 野村 剛志	38	1	44	1984

7.2 海水の科学と資源

(1) 製塩および食塩

(ノート) メキシコ天日塩の結晶中および結晶表面の不純物について	増沢 力	31	2	69	1977
イオン交換膜法製塩による並塩の固結傾向について	増沢 力, 竹中 況三, 藤本 好恵, 鍵和田 健一	31	5	228	1978
イオン交換膜法製塩による食塩の固結傾向について	増沢 力, 竹中 況三, 藤本 好恵, 鍵和田 健一	32	1	34	1978

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
 昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
オーストラリア天日塩の結晶中および結晶表面の不純物について(その2)	増沢 力	34	1	13	1980
タイ天日塩の品質と塩田母液組成	増沢 力	38	5	314	1985
製塩工場の缶内液組成について	長谷川 正巳, 西村 ひとみ, 曾我 清己, 杉田 静雄	39	2	94	1985
製塩工程における臭素の挙動	西村 ひとみ, 曾我 清己, 杉田 静雄	40	2	105	1986
食塩の付着性の検討	篠原 富男, 曾我 清己, 鍵和田 健一	40	3	135	1986
食塩の内部摩擦係数	後藤 昭博, 伊ヶ崎 文和, 河村 光隆	40	3	146	1986
食塩の壁面摩擦係数について	後藤 昭博, 伊ヶ崎 文和, 河村 光隆	40	4	222	1986

(2) 相律

イオンかん水蒸発母液の冷却による塩類結晶の析出について(その2)	岡 俊平	31	4	164	1977
2CaCl <sub>2</sub> ・MgCl <sub>2</sub> ・6H <sub>2</sub> O複塩について	真嶋 久之助, 山代 雅敏, 岡 俊平	34	3	187	1980
110°CにおけるNaCl-CaCl <sub>2</sub> -H <sub>2</sub> O, KCl-CaCl <sub>2</sub> -H <sub>2</sub> O, NaCl-KCl-H <sub>2</sub> O系の平衡について	真嶋 久之助, 岡 俊平	34	4	263	1980
110°CにおけるNaCl-MgCl <sub>2</sub> -H <sub>2</sub> O, NaCl-MgCl <sub>2</sub> -CaCl <sub>2</sub> -H <sub>2</sub> O系の平衡について	真嶋 久之助, 甲木 和子, 岡 俊平	35	6	344	1982
110°CにおけるKCl-MgCl <sub>2</sub> -H <sub>2</sub> O, KCl-MgCl <sub>2</sub> -CaCl <sub>2</sub> -H <sub>2</sub> O系の平衡	真嶋 久之助, 甲木 和子, 岡 俊平	36	6	381	1983
110°CにおけるNaCl-KCl-MgCl <sub>2</sub> -CaCl <sub>2</sub> -H <sub>2</sub> O系の平衡	真嶋 久之助, 岡 俊平	37	2	90	1983

(3) にごり

(ノート)イオン交換膜法製塩の際得られる濃厚にごり(イオン濃厚にごり)の蒸発濃縮に伴う粘度変化	香西 保明, 南 賢次	31	1	12	1977
---	-------------	----	---	----	------

(4) ウラン

アルミニウム-活性炭系複合吸着剤および水酸化アルミニウムの物性とウラン吸着性	加藤 俊作, 菅坡 和彦, 藤井 綾子, 高木 憲夫, 宮井 良孝	31	1	7	1977
(ノート)アルミニウム-活性炭系複合吸着剤および水酸化アルミニウムの加熱によるウラン吸着性の変化	加藤 俊作, 菅坡 和彦, 藤井 綾子, 高木 憲夫	31	3	128	1977
亜鉛-活性炭系複合吸着剤の調製条件の性質	宮井 良孝, 高木 憲夫, 北村 孝雄, 加藤 俊作, 宮崎 秀甫	32	2	89	1978

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
亜鉛-活性炭系複合吸着剤のウラン吸着性に影響する諸因子の検討	宮井 良孝, 北村 孝雄, 高木 憲夫, 加藤 俊作, 宮崎 秀甫	32	3	141	1978
海水溶存成分に対するチタン-活性炭系複合吸着剤の吸着性に関するスパーク源質量分析法による研究	和田 英男, 北村 孝雄, 藤井 綾子, 加藤 俊作, 菅坡 和彦	32	6	329	1979
チタン-活性炭系複合吸着剤の造粒条件とウラン吸着性	宮井 良孝, 北村 孝雄, 加藤 俊作, 宮崎 秀甫	33	2	102	1979
海水中ウランの濃縮に対する相乗分離法について	城塚 正, 井上 英治	34	3	189	1980
チタン-活性炭系複合吸着剤からのウランの脱着	廣津 孝弘, 藤井 綾子, 坂根 幸治, 加藤 俊作, 菅坡 和彦, 宮崎 秀甫	35	1	16	1981
新型ウラン吸着剤-508A樹脂	陳 一飛	35	1	24	1981
固定床海水層を用いた粒状複合吸着剤による海水からのウラン採取	加藤 俊作, 坂根 幸治, 廣津 孝弘, 藤井 綾子, 北村 孝雄, 菅坡 和彦	35	3	156	1981
ポリアクリル酸ヒドロジドを用いて造粒した粒状複合吸着剤の物性とウラン吸着性	宮井 良孝, 加藤 俊作, 菅坡 和彦, 小林 正弘	35	3	162	1981
イオン交換法による炭酸ナトリウム-炭酸水素ナトリウム系脱着液からウランの分離	坂根 幸治, 廣津 孝弘, 藤井 綾子, 加藤 俊作, 菅坡 和彦	35	5	274	1982
ウランを含む人工海水中におけるイオンの拡散係数	斎藤 恭一, 宮内 照勝	35	6	349	1982
海水ウラン採取用吸着剤の評価の方法	尾方 昇	36	2	94	1982
テトラエチレングリコールジメタクリル酸エステル (TEGDM) で架橋したアミドキシム樹脂による海水からウランの採取	坂根 幸治, 廣津 孝弘, 高木 憲夫, 加藤 俊作, 菅坡 和彦, 梅沢 義雄, 高井 信治, 高橋 浩	36	2	101	1982
チタン酸・コージライト複合吸着剤の基礎研究	山崎 恒博	36	3	154	1982
海水ウラン採取用吸着剤の強度試験	高木 憲夫, 菅坡 和彦, 加藤 俊作	36	6	374	1983
海水ウラン採取における吸脱着プロセス	尾方 昇	37	1	33	1983
チタン-活性炭系複合吸着剤からの酸性脱着液によるウランの脱着 (I)	廣津 孝弘, 藤井 綾子, 坂根 幸治, 加藤 俊作, 菅坡 和彦	37	3	159	1983
チタン-活性炭系複合吸着剤からの酸性脱着液によるウランの脱着 (II)	廣津 孝弘, 藤井 綾子, 坂根 幸治, 加藤 俊作, 菅坡 和彦	37	5	290	1984
酸性脱着液からのウランの分離・濃縮	佐々木 明夫, 越後 良彰, 山尾 陸炬, 末松 義之, 石倉 正, 廣津 孝弘, 加藤 俊作, 菅坡 和彦	37	6	341	1984
限外ろ過法による炭酸系脱着液からのウランの濃縮	大井 健太, 加藤 俊作, 菅坡 和彦	37	6	352	1984

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
水酸化マグネシウム沈殿を用いる海水からのウラン採取	藤永 太一郎, 桑本 融, 中山 英一郎, 一色 健司	38	1	50	1984
海水ウラン採取工程中のウランのイオン状態	尾方 昇	38	2	111	1984
チタン酸・コージライト複合吸着剤の研究	山崎 恒博	38	2	116	1984
チタン酸による海水中のウランの吸着速度 (I)	妹尾 三郎, 小田 康義, 小西 秀雄	38	3	154	1984
チタン酸による海水中のウランの吸着速度 (II)	妹尾 三郎, 小田 康義, 小西 秀雄	38	3	158	1984
ウラン含有チタン酸からのウランの脱着	妹尾 三郎, 小田 康義, 小西 秀雄	38	4	205	1984
海水ウラン脱着液より電気透析法による脱着剤の回収	妹尾 三郎, 小田 康義, 小西 秀雄	38	4	212	1984
チタン酸系ウラン吸着剤	妹尾 三郎, 小田 康義, 小西 秀雄	38	4	218	1984
堆積スラリー法による海水からのウラン回収プロセスのコスト・エスティメーション	山本 龍也, 高瀬 久男, 福岡 文雄	39	1	3	1985
海水からのウラン回収プロセスの概念設計	鈴木 基之, 茅原 一之, 藤本 正彦, 八木 洋, 和田 明宏	39	3	152	1985
親水性アミドキシム樹脂の膨潤性の改良	高木 憲夫, 廣津 孝弘, 加藤 俊作, 菅坡 和彦, 高井 信治, 高橋 浩, 板垣 孝治	40	1	3	1986
浮選による海水中のウランの分離濃縮	野崎 亨, 山下 浩	40	2	95	1986
ブロック状吸着剤の調製とウラン吸着性	小林 正弘, 加藤 俊作, 菅坡 和彦	40	4	211	1986
繊維状成形体による海水ウランの吸着	加藤 俊作, 菅坡 和彦, 野木 立男, 吉住 重夫, 美馬 宏二	40	4	216	1986

(5) その他の海水成分

浮選による硫酸ナトリウムの分離	本山 正夫, 門田 稔, 岡 俊平	31	4	184	1977
含水酸化アルミニウムを主成分とする吸着剤の物性と海水からのリチウムの選択的吸着	北村 孝雄, 和田 英男	32	2	78	1978
ジピクリルアミンによる濃縮海水からのカリウムの回収に関する検討	松田 正治, 増田 等, 石坂 誠一	32	2	82	1978
ポリアミドクラウン樹脂によるカリウム・ナトリウムの分離	井川 学, 田中 正雄, 阿部 勇輝, 山辺 武郎	33	6	305	1980
含水酸化チタンによる海水中のモリブデンおよびバナジウムの吸着	宮井 良孝, 大井 健太, 加藤 俊作, 菅坡 和彦	36	4	240	1982
2.5MgO·Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> ·xH <sub>2</sub> O (KW300) による海水からのリチウムの吸着機構	馬場 由成, 井上 勝利, 後藤 昭弘, 中森 一誠	38	3	137	1984
海水中のウラン以外の希少資源の回収	妹尾 三郎, 小田 康義, 小西 秀雄	38	3	227	1984

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
 昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
含水酸化マンガンによる海水中のモリブデンおよびバナジウムの吸着	宮井 良孝, 大井 健太, 加藤 俊作	38	5	300	1985

(6) 地球科学および環境科学

日本沿岸海域における水質の特徴	磯 舜也, 乾 政秀	32	3	117	1978
MF値と海水中の懸濁物質との関係	柘植 日出夫, 杉村 康夫, 流谷 哲雄, 松村 哲夫	35	3	140	1981
照度と栄養塩類濃度が異なる条件下で培養した海産珪藻, <i>Phaeodactylum tricornerutum</i> の有機物組成の変動	柳 勝美	35	5	289	1982
海水中の窒素およびリンについて	鷺 猛, 三宅 泰雄, 猿橋 勝子	36	4	253	1982
海水におけるホウ素含有量とその同位体比の測定	野村 雅夫, 岡本 真実, 垣花 秀武	38	1	28	1984
生物・岩石および金属における元素組成の規則性 一元素普存説一	原田 武夫	38	5	291	1985
海水中の溶存炭素について	三宅 泰雄, 猿橋 勝子, 金沢 照子, 鷺 猛	38	6	353	1985
(ノート)汚濁水の表層拡散 一乙津泊地における水質調査	中原 東郎, 佐々木 英次, 神田 幸雄, 梅野 秀夫, 早野 市郎, 神谷 国男	39	3	171	1985
伊勢湾の窒素・リンおよびCODの分布態様	太田 立男	39	5	310	1986
各種マングローブ葉のイオン組成	加藤 茂, 矢口 行雄, 杉 二郎	40	1	9	1986
海水中の親生元素の濃度に関する理論的研究	三宅 泰雄, 猿橋 勝子, 鷺 猛, 金沢 照子	40	6	342	1987

7.3 分析および物性

(1) 海水主成分

オートアナライザーによる塩素イオンの定量	加納 隆弘, 杉田 静雄	31	4	179	1977
オートアナライザーによるカリウムイオンおよびナトリウムイオンの定量	加納 隆弘, 杉田 静雄	33	2	116	1979
キレート樹脂濃縮 一原子吸光光度計による高純度塩中の微量カルシウムの定量	広井 功, 篠原 富男	34	1	20	1980
陽イオン交換樹脂を用いる硫酸イオンの定量	加納 隆弘, 杉田 静雄	34	1	25	1980
キシリジルブルー法によるマグネシウムの比色定量	加納 隆弘, 杉田 静雄	35	1	28	1981
0-クレゾールフタレインコンプレクソンによるカルシウムの比色定量	加納 隆弘, 杉田 静雄	35	1	33	1981
食塩中の塩化物の定量	新野 靖, 清水 典子, 西村 ひとみ, 尾方 昇	39	3	136	1985

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
 昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
(2) 海水微量成分					
ガストランスファ形計器を用いた海水中の微量溶存酸素測定 の検討	杉野 邦雄, 小畑 健三郎	32	1	34	1978
食塩に添加した有機酸のガスクロマトグラフ法による定量	篠原 富男, 広井 功	32	1	53	1978
(ノート)4-ベンゾイル-3-メチル-1-フェニル-5-ピラゾロンを 用いる海水中モリブデンの溶媒抽出-原子吸光分析	赤間 美文, 中井 敏, 河村 文一	33	3	180	1979
電量検出液体クロマトグラフィーによる海水中のウランの定量	前小屋 千秋, 高田 芳矩	33	6	311	1980
アゾメチンHによる海水, かん水およびにがり中のホウ素の吸 光光度定量	上杉 勝弥, 山口 茂六, 石原 良雄	34	4	249	1980
(ノート)天日塩中の微量コバルト, 銅, マンガン, ニッケル, 鉛の溶媒抽出 -原子吸光分析	赤間 美文, 中井 敏夫, 河村 文一	34	3	196	1980
(ノート)天日塩中の鉄の吸光光度定量	赤間 美文, 佐藤 健二, 中井 敏, 河村 文一	34	3	200	1980
沈殿法を用いる海水中の無機リンの蛍光X線分析	高畑 律明, 前田 嘉道, 米田 昭夫, 安積 敬 嗣	34	5	301	1981
(ノート)5-ブロムサルチルアルドキシムを用いる海水かん水お よび食塩中の銅の溶媒抽出 -原子吸光分析	上杉 勝弥, 山口 茂六, 石原 良雄	35	6	299	1982
オキシソルチルアルドキシムを用いる海水中のモリブ デンおよびバナジウムの定量	宮井 良孝, 菅坂 和彦, 加藤 俊作	36	3	159	1982
2-ヒドロキシ-1-ナフトアルドキシムを用いる海水および食塩 中のマンガンの溶媒抽出-原子吸光分析	上杉 勝弥, 山口 茂六, 石原 良雄	36	6	387	1983
共沈濃縮法を用いる海水中の銅の原子吸光分析	松田 隆, 前田 嘉道, 安積 敬嗣	37	1	27	1983
MF値と濁度の比較検討	新野 靖, 清水 典子, 尾方 昇, 宮内 永和	37	1	38	1983
天然水中のクロロフィルa, bおよびフェオフィチンa, bの迅速 蛍光定量法	芳竹 良彰, 西川 泰治, 平木 敬三, 尾上 義 明, 重松 恒信	37	6	335	1984
2-ヒドロキシ-1-ナフトアルドキシムを用いる海水および食塩 中のニッケルの溶媒抽出 -原子吸光分析	上杉 勝弥, 山口 茂六	37	6	348	1984
5-クロロサリチルアルドキシムを用いる海水, 天日塩中の銅お よび鉄の溶媒抽出 -原子吸光分析	山口 茂六, 上杉 勝弥	39	1	27	1985
高周波誘導結合プラズマ -発光分光分析法によるウランの定 量	坂根 幸治, 加藤 俊作	39	1	37	1985
蛍光X線法を用いる海水中のバナジウムの定量	齊藤 豊, 前田 嘉道, 米田 昭夫, 安積 敬嗣	39	1	42	1985

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
2-ヒドロキシ-1-ナフトアルデヒド-4-フェニル-3-チオセミカルバゾンを用いる海水および食塩中の数種金属の溶媒抽出 - 原子吸光分析	山口 茂六, 上杉 勝弥	39	2	89	1985
炭酸バリウム共沈法を用いる環境水中のストロンチウムの蛍光X線分析	西岡 洋, 米田 昭夫, 前田 嘉道, 安積 敬嗣	39	6	393	1986
共沈濃縮法を用いる海水中の銅の黒鉛炉原子吸光分析	西岡 洋, 前田 嘉道, 安積 敬嗣	40	2	100	1986
蛍光X線法を用いる海水中のモリブデンの定量	木村 彰宏, 米田 昭夫, 前田 嘉道, 安積 敬嗣	40	3	141	1986
共沈濃縮法を用いる海水中のニッケルの黒鉛炉原子吸光分析	西岡 洋, スリワタナ・アサダモンコル, 前田 嘉道, 安積 敬嗣	40	5	286	1987

(3) 物性

(ノート) 臭素を含む4.5規定塩化ナトリウム水溶液中のハロゲン分子の気液平衡	竹内 紀男, 後藤 藤太郎	31	1	16	1977
NaOH-KOH混合水溶液の積分希釈熱について	秋谷 鷹二, 大輪 優, 川崎 成武	33	4	207	1979
各種濃度の水酸化ナトリウム水溶液中のクリプトンの溶解度	竹内 紀男	34	4	255	1980
電解質水溶液の物性の相関-蒸気圧, 沸点上昇, 蒸発潜熱に及ぼす電解質濃度の影響について	佐古 猛, 原谷 賢治, 小畑 健三郎, 白田 利勝	37	3	165	1983
(ノート) 食塩水電解における新型二酸化鉛電極の電位について	植田 稔, 深沢 旭	38	4	233	1984

8. 特集記事

8.1 国際脱塩・水利用会議報告

第1編 大会概要	後藤 藤太郎	31	6	271	1977
第2編 技術セッション論文内容と質疑応答	大矢 晴彦, 木村 尚史, 後藤 藤太郎, 外山 茂樹	31	6	275	1978
第3編 パネル討論	後藤 藤太郎	31	6	312	1978
第4編 プラントツアー 1. 鹿島ツアー見学記	浦野 紘平	31	6	314	1978
第4編 プラントツアー 2. 茅ヶ崎海水淡水化臨海研究所見学	大矢 晴彦	31	6	316	1978
第4編 プラントツアー 3. 香港ツアー	橋爪 正男	31	6	321	1978
第4編 プラントツアー 4. レディースプログラム	橋爪 正男, 八代 大六郎	31	6	334	1978

8.2 第5回国際塩シンポジウムおよびヨーロッパ塩事情調査報告

総括	村上 正祥	32	5	235	1979
第1部 第5回国際塩シンポジウム	増沢 力	32	5	236	1979



日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
第2部 ヨーロッパ塩事情調査	村上 正祥	32	5	258	1979
第3部 家庭用塩調査	村上 正祥	32	5	273	1979
第4部 資料	増沢 力	32	5	277	1979
印象記 1. リューネブルグにて	篠原 篁	32	5	279	1979
印象記 2. 西ドイツ見聞記	村井 清水	32	5	280	1979

8.3 第6回海水淡水化国際シンポジウムーヨーロッパおよび中近東淡水化事情調査報告

第1編 調査団概要	大矢 晴彦	33	1	3	1979
第2編 第6回海水淡水化国際シンポジウム	大矢 晴彦	33	1	6	1979
第3編 訪問施設調査 1. ラスパルマス海水淡水化プラント	工藤 良一郎	33	1	49	1979
第3編 訪問施設調査 2. ラアグ腐食研究所 (La Hague Corrosion Testing Laboratory)	山本 博司	33	1	52	1979
第3編 訪問施設調査 3. フランス原子力公社本部 (Commissariat a l'Energie Atomique, CER)	松井 宏仁	33	1	54	1979
第3編 訪問施設調査 4. テルヌーゼン海水淡水化プラント (PZEM)	中村 操	33	1	55	1979
第4編 訪問記 1. クウェート訪問記	木村 尚史	33	1	59	1979
第4編 訪問記 2. 中近東・東南アジアの水事情と淡水化の現況	松井 宏仁	33	1	63	1979
第5編 調査団雑感 シンポジウム雑感	松井 宏仁	33	1	66	1979
第5編 調査団雑感 ラスパルマス雑感	谷口 良雄	33	1	66	1979
第5編 調査団雑感 雑感	中嶋 義弘	33	1	68	1979
第5編 調査団雑感 Day Life in Las Palmas	柘植 日出夫	33	1	68	1979

8.4 第4回IDEA海水淡水化・水再利用会議報告ーチャナバサパ博士追悼記念

IEDシンポジウムについて	木村 尚史	33	6	303	1980
第1編 調査団概要	木村 尚史	33	6	305	1980
第2編 シンポジウム	木村 尚史	33	6	307	1980

8.5 イオン交換膜電気透析法による製塩(創立30周年記念特集号)

I 総論 イオン交換膜電気透析法による製塩の現状と将来	村上 正祥, 藤原 滋	34	2	49	1980
II 各論 1. 製塩プラント	村上 正祥	34	2	59	1980
II 各論 2. かん水採取(採かん)工程	渡部 忠行, 広井 功, 畦地 昭二, 田中 良修, 藤本 好恵	34	2	61	1980

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
Ⅱ各論 3. 蒸発・晶出—せんごう工程	村上 正祥	34	2	91	1980
Ⅱ各論 4. 製品化工程	岡 光蔵	34	2	97	1980
Ⅱ各論 5. スケール生成と防止対策	杉田 静雄	34	2	103	1980
Ⅱ各論 6. 塩の品質	増沢 力	34	2	109	1980
Ⅱ各論 7. にがり工業	林 真敬, 広井 功	34	2	116	1980
Ⅲイオン交換膜および製塩企業の実例 1. イオン交換膜電気透析による製塩	川手 英男, 永里 喜彦	34	2	121	1980
Ⅲイオン交換膜および製塩企業の実例 2. イオン交換膜法海水濃縮技術の現状と未来	糸井 滋	34	2	125	1980
Ⅲイオン交換膜および製塩企業の実例 3. イオン交換膜法製塩技術	小淵 康利, 篠塚 英夫	34	2	130	1980
Ⅲイオン交換膜および製塩企業の実例 4. 製塩工場	蒔田 一郎	34	2	135	1980

8.6 第7回海水淡水化国際シンポジウム脱塩技術海外調査団報告

シンポジウムに参加して	外山 茂樹	34	4	381	1980
調査団概要		34	4	383	1980
シンポジウムの論文内容		34	4	385	1980

8.7 沿岸水域の環境保全と海水の取水廃水設備について

I 総論 沿岸海水利用の現状と将来	後藤 藤太郎, 尾方 昇	35	4	183	1981
Ⅱ各論 1. 日本沿岸水域における栄養塩分布の現状	岡部 史郎, 福井 深	35	4	196	1981
Ⅱ各論 2. 取水設備と前処理	磯 舜也, 今藤 勇, 酒井 優	35	4	211	1981
Ⅱ各論 3. 放流設備	磯 舜也, 今藤 勇, 水津 茂	35	4	228	1981
Ⅱ各論 4. 沿岸海域の水質保全	大塩 敏樹	35	4	238	1981

8.8 海洋エネルギーと関連構造物

1. 総論とポルシェ計画	太田 時男	36	3	164	1982
2. 100kW海洋温度差発電試験について	伊藤 文夫	36	3	170	1982
3. 波浪エネルギー	田中 裕久	36	3	175	1982
4. 温度差発電	大矢 晴彦	36	3	181	1982
5. 浮遊式OTEC構造物について	片山 正敏	36	3	186	1982
6. 海洋エネルギーと関連構造物 (エネルギープラントにおける海水の取排水設備について)	磯 舜也	36	3	192	1982

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
<b>8.9 海水利用における化学分析</b>					
I 総論 海水利用に関する化学分析の変遷と将来	清水 和雄	36	5	269	1983
II 各論 1. 食塩・海水・かん水およびにがり中の主成分の分析	広井 功	36	5	278	1983
II 各論 2. 海水, 食塩の微量成分の分析	和田 芳裕	36	5	291	1983
II 各論 3. スケールの分析	杉田 静雄	36	5	304	1983
II 各論 4. 海水中の微量成分の分析	加藤 俊作, 藤井 綾子, 宮井 良孝, 坂根 幸治, 尾方 昇	36	5	310	1983
II 各論 5. 海水中の懸濁物質, 濁度の測定	国定 勇一	36	5	324	1983
II 各論 6. 栄養塩類およびクロロフィル色素の分析	柳 勝美, 福井 深, 岡部 史郎	36	5	332	1983
II 各論 7. 海水中における有機汚濁物質の分析	福井 深, 柳 勝美, 岡部 史郎	36	5	346	1983
<b>8.10 第6回国際塩シンポジウムおよびカナダ, アメリカ, メキシコ塩事情調査報告</b>					
総括 第6回国際塩シンポジウムおよびカナダ, アメリカ, メキシコ塩事情調査報告	山中 弘久	37	4	203	1983
第1部 第6回国際塩シンポジウム概要	杉田 静雄	37	4	204	1983
第2部 カナダ, アメリカ, メキシコ塩事情調査報告 I 北アメリカ諸国(カナダ, アメリカ, メキシコ)における塩事情	山中 弘久	37	4	219	1983
第2部 カナダ, アメリカ, メキシコ塩事情調査報告 II 製塩工場見学記	杉田 静雄	37	4	225	1983
第2部 カナダ, アメリカ, メキシコ塩事情調査報告 III 岩塩坑(レトソフおよびゴードリッチ)見学記	山中 弘久	37	4	240	1983
第2部 カナダ, アメリカ, メキシコ塩事情調査報告 IV メキシコ・ゲレロネグロ天日塩田見学記	山中 弘久	37	4	246	1983
印象記 妻への絵葉書短信	吉田 一見	37	4	252	1983
印象記 見聞録	林 晋一	37	4	254	1983
印象記 塩業随想	浅野 譲	37	4	255	1983
<b>8.11 第1回海水淡水化・水再利用国際会議報告</b>					
1. 調査団概要	木村 尚史	37	5	299	1984
2. 脱塩プロセスのエネルギーおよび経済性	外山 茂樹	37	5	299	1984
3. 材料と腐蝕	小堀 和男	37	5	303	1984
4. 蒸発法	服部 一男	37	5	306	1984
5. 太陽熱利用法と冷凍法	川崎 成武	37	5	312	1984

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
6. 膜法	岸 正弘, 山辺 武郎	37	5	314	1984
7. 膜の製作	松下 義信	37	5	319	1984
8. 合成膜の特性と透過性	木村 尚史	37	5	321	1984
9. 蒸発法装置のスケール生成と汚染	外山 茂樹	37	5	323	1984
10. 膜法装置のスケール生成と汚染	木村 尚史	37	5	325	1984
11. 水再利用および回収	村山 義夫	37	5	327	1984
<b>8.12 海洋エネルギーと資源</b>					
I 総論 海洋開発の現状と将来	楠田 昭二	39	4	189	1985
II 各論 1. 海洋エネルギーと発電	梶川 武信	39	4	203	1985
II 各論 2. 深海底鉱物資源の研究と最近の動向	水野 篤之	39	4	227	1985
II 各論 3. 溶存物質の回収システムの動向	菅野 昌義	39	4	240	1985
II 各論 4. 海洋生物資源の培養と利用	本間 昭郎	39	4	252	1985
II 各論 5. 海洋空間の利用構想と技術開発の動向	磯 舜也	39	4	265	1985
<b>8.13 第2回海水淡水化・水再利用国際会議</b>					
1. はじめに	木村 尚史	40	1	33	1986
2. 調査団について		40	1	34	1986
3. 日程		40	1	34	1986
4. 発表論文の要旨		40	1	35	1986
4.1 セッションI 海水淡水化技術の将来に関する円卓会議	木村 尚史	40	1	35	1986
4.2 セッションII 膜法	鶴川 直彦	40	1	37	1986
4.3 セッションII 膜法 (ポスターセッション)	外村 孝	40	1	38	1986
4.4 セッションIII 脱塩における薬品類について	太田 敬一	40	1	40	1986
4.5 セッションIII 脱塩操作と化学物質 (ポスターセッション)	田村 真紀夫	40	1	41	1986
4.6 セッションIV 蒸留技術	服部 一男	40	1	42	1986
4.7 セッションIV 蒸留技術 (ポスターセッション)		40	1	44	1986
4.8 セッションV 材料および腐食	徳永 俊郎	40	1	45	1986
4.9 セッションV 材料および腐食 (ポスターセッション)	須田 昇一	40	1	46	1986
4.10 セッションVI 海水淡水化プラントの運転状況	小山 誠二	40	1	46	1986
4.11 セッションVI 海水淡水化プラントの運転状況 (ポスターセッション)	山田 進一	40	1	48	1986

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
4.12 セッションVII 水再利用	村山 義夫	40	1	49	1986
4.13 セッションVII 水再利用 (ポスターセッション)	下村 達男	40	1	50	1986
4.14 セッションVIII 研究	木村 尚史	40	1	51	1986
4.15 セッションVIII 研究 (ポスターセッション)	須田 昇一	40	1	53	1986
4.16 セッションVIII 研究 (ポスターセッション)	木村 尚史	40	1	54	1986
訪問記 5.1 ユマ脱塩プラント訪問記	木村 尚史	40	1	55	1986
訪問記 5.2 Fluid Systems訪問記	鶴川 直彦	40	1	56	1986
訪問記 5.3 Water-Factory-21を訪れて	高橋 拓夫	40	1	57	1986

8.14 材料・構造物小特集

付着生物研究の最近の動向と展望	梶原 武	40	3	174	1986
耐海水用材料について	小林 未子夫	40	3	182	1986
海水ポンプの腐食と対策	北嶋 宣光	40	3	190	1986
海洋環境におけるコンクリート構造物の防食	片脇 清士	40	3	197	1986

9. 資 料

イスラエルの中心課題”水”－第1編 水事情, 水利行政および水資源開発の実態	宮武 修	31	1	20	1977
イスラエルの中心課題”水”－第2編 蒸発法による脱塩	宮武 修	31	2	73	1977
野島海水淡水化装置の運転報告	三羽 隆	31	2	82	1977
イスラエルの中心課題”水”－第3編 電気透析法, 逆浸透法, イオン交換法による脱塩	宮武 修	31	3	132	1977
国際塩シンポジウム		31	3	140	1977
米国における膜法の現状－NWSIAに出席して－	小森 良三	31	5	256	1978
海外における膜研究の動向－膜技術研究会(昭和52年12月)での講演	仲川 勤	32	1	58	1978
死海における天然資源の開発－現状と将来	Chaim Forgacs	32	2	76	1978
PBIL逆浸透膜の特性について	横山 晴一	32	3	158	1978
天然資源の開発利用に関する日米会議“塩水転換および副産物利用技術合同専門部会”の開催	後藤 藤太郎	32	3	167	1978
米国の塩事情	加峯 正美	32	4	211	1978
高温電気透析	Chaim Forgacs	32	4	222	1978
海水ウラン採取に関する中国との学術交流	尾方 昇	33	2	129	1979

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
 昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
食用塩の国際規格化の動き	岡 光蔵	33	3	190	1979
米国の塩事情 (その2)	加峯 正美	33	4	237	1979
蒸発法造水装置について最近の話題－IEDA Nice－会議の報告	佐藤根 弘之	34	1	37	1980
“水技術専門部会”第12回日米合同部会の開催について	後藤 藤太郎	34	4	271	1980
米国における塩産業	Frank Osborn Wood	34	5	327	1981
米国における塩利用	Frank Osborn Wood	34	5	333	1981
太陽熱蒸留	A. A. Delyannism, E. Delyannis	34	5	340	1981
K. S. Spiegler博士の講演を聞いて	井川 学	35	1	38	1981
製塩プラントの省エネルギー対策	磯岡 惇	35	1	41	1981
茅ヶ崎における逆浸透法海水淡水化の技術開発	国定 勇一	35	2	82	1981
イオン交換膜透析技術における問題点	田中 良修	35	2	93	1981
メキシコ調査団報告	後藤 藤太郎	35	2	99	1981
海水の利用と環境	堀部 純男	35	2	101	1981
海水科学の将来方針について－将来方針検討会報告		35	2	103	1981
海水科学の将来方針について－解説	尾方 昇	35	2	106	1981
NWSIA第9回年次大会に出席して	田中 一也	35	3	168	1981
第8回海洋エネルギー会議と海洋温度差発電	磯 舜也	35	3	171	1981
海水ウラン採取関連の国際シンポジウムの概要	尾方 昇	35	5	303	1982
塩に関する文献紹介	田中 良修, 鈴木 貴志子	35	5	309	1982
第5回IDEA海水淡水化・水再利用会議報告	木村 尚史	36	1	50	1982
イオン交換膜法の現状	住田 哲夫	36	2	108	1982
海水ウラン採取用吸着剤の試験方法	垣花 秀武, 尾方 昇	36	6	403	1983
水供給改善協会 (WSIA) 第10回年次総会報告	山辺 武郎	36	6	409	1983
米国の塩事情	Dennis S. Kostick (訳 山中 弘久)	37	1	42	1983
重油からの燃料転換	大目 誠一	37	2	109	1983
海水による装置・構造物の腐食, 生物汚れとその対策	磯 舜也	37	2	124	1983
タイ国塩業の現状	村上 正祥	37	3	171	1983
粉粒体の空気輸送	広田 健	38	1	56	1984
ナウル島海洋温度差発電実証プラントにおける海生生物の調査研究	伊藤 文夫, 丸茂 隆三, 福岡 一平, 田村 正之	38	3	169	1984
塩の組成と品質	村上 正祥	38	4	236	1984
プレス造粒法の技術	溝口 忠一	39	1	48	1985

日本海水学会誌 第31巻～第40巻 総目次  
 昭和52(1977)年～昭和61(1986)年

表 題	著 者	巻	号	頁	年
世界の塩事情	橋本 壽夫	39	5	320	1986
技術資料集“イオン交換膜の工業的応用”の出版について	田中 良修	39	6	399	1986
イオン交換膜における最近の進歩	浅輪 達郎, 佐田 俊勝, 田中 哲郎, 田中 良修	40	2	111	1986
1983年の世界の塩事情	橋本 壽夫	40	4	234	1986
仁尾海水ウラン回収技術研究所の概要	尾方 昇	40	4	247	1986
アメリカと世界の塩事情	橋本 壽夫	40	5	297	1987
中国の水と塩	橋爪 正男	40	5	311	1987
<b>10. 会員寄書</b>					
故野口武氏追悼の辞	阿部 正二	35	6	361	1982
目標は工業塩の製造にある	垣花 秀武 (訳 尾方 昇)	39	1	55	1985
海水ウラン回収技術訪中団報告	尾方 昇	40	4	254	1986